

# 育児における絵本の意識と父親の役割

—母親との比較を通して—

前 徳 明 子

## Consciousness of Picture Book and Father's Role during Child Raising

— Comparing with Mother's Role —

MAETOKU Akiko

キーワード：家庭における絵本利用、父親の育児参加、母親との比較

### はじめに

父親の育児参加が叫ばれているが、現実の問題としてなかなか難しい。川上あずさ、牛尾禮子は、「育児とは、子どもの生命を守り、心身の発達を助け、健康の増進をはかり、社会に適応できるように育てることであり、そこには父親の持つ育児役割意識が大きな影響を及ぼす」<sup>1)</sup>とした。鈴木光司『父性の誕生』の中で、「『女性のデータブック [第3版]』によると、六歳未満の子供のいる世帯の夫婦が、一日の中で育児に費やす時間には圧倒的な差がある。夫は平日わずか10分、休日でも土曜日29分、日曜日38分。これはおむつを替えたり、ミルクをやったりと直接育児に費やされる時間だとしても、あまりに少ない。家事関連時間、つまり掃除をしたり、洗濯をしたりと言った妻の家事の負担を少なくするための手伝いにしても、平日は20分、土日は若干増えて1時間を越えてはいる。それに対し、妻の平日の育児はこのデータによると2時間47分、家事は7時間41分となっている。」<sup>2)</sup>としている。

平成6年の「家庭教育に関する国際比較調査報告書」(日本女子社会教育会)によると、「日本の父親は、「生活費を負担する」ことを専ら分担しているが「食事の世話」「しつけ」「勉強を教え

る」などは「主に母がする」割合が高い。また、父親達の労働時間は、週50時間で最も長い場合、家庭や子育てに費やす時間が少ない。この時間差からも父親と母親の子どもに対する関わり方の内容や密度に違いがでていようと考えられる。

また、少子家庭・核家族化による人間関係の単純化・希薄化など人間関係の問題もあげられている。家庭での関わり方や環境問題が重要になっている。特に親子のつながりは、重要であると考えられる。家庭での父親と子どものつながりの希薄化が心配される中、母親だけでなく、父親による読み聞かせも推進されている。松居直は、「絵本とは、親と子を結ぶ心の広場である。子どもは、お父さんお母さんが自分に本を読んでもらうこと自体が嬉しく、おまけにその絵本がおもしろければとても幸せなのである。親と子が共通の精神を持っていること—絵本を読んであげること—は、親と子の人間関係に計り知れぬ重みと意味がある。」<sup>3)</sup>と述べている。親とは、父親、母親両方のことを指すことは言うまでもなく、実際、両方の親が子どもに関わり、読み聞かせを行うことが望ましいのだが、現実の問題としてはなかなか難しい所もある。

福沢周亮は、「ふだんから、どのような価値をあたえるべきか、どのような内容をあたえるべきか、どのような本がよいかなどについて、検討しておくとういと思います。」<sup>4)</sup>と述べている。

これまでも絵本についての研究では、林伸

子の母親の絵本観に関する研究、小林斗志子の小学校児童と母親の絵本観に関する研究、正高信男は、『父親力』の中で男性と女性の声の影響力の違い<sup>5)</sup>の研究などがある。

今まで、研究されてきた絵本の研究は、母親、子どもが中心であったため、父親の絵本に関する研究も必要であると考ええる。

そこで、今回は、母親との比較を行いながら、父親の研究を目的とした。

本論文では、家庭内での絵本利用の状況と父親の育児参加の現状を探り、父親が子どもに与える絵本に期待するものは何かを母親との比較を通し明らかにする。

## I. 育児における絵本の意義

『岩波国語辞典第三版』によれば、絵本とは、「①(児童用の)絵を主とした本。②さし絵を主にした、江戸時代の通俗物語。絵草子。」と記されている。また、『広辞苑第五版』には、「①挿絵のある書簡。絵の本、絵草子。②絵の手本。③絵を主体とした児童用読物。」と書かれている。

松居は、絵本について、「文(物語)と、絵が一体になっている本」<sup>6)</sup>とし、絵本についていくつかの項目にわけ説明している。

・絵本とは、大人(母親や父親)が子どもに読んであげる本である。読んでもらって耳からことばを受け入れる本だからこそ、絵本は子どもにとって貴重な存在なのである。

・絵本とは、手を使って見るものである。手を使って頁を操るといった動作を伴うことによって、初めておもしろさを味わうことができ、大人が絵本を見せている場合でも次をめくる興味を示し、自ら手をだして次のページをめくろうとする。ここに、本と人間との価値の第一歩がある。

・絵本とは、幼児にとって体験を豊かにする機会を与えるものである。自分の力で物語のイメージが浮かばない子ども、挿絵の絵を手掛かりにして心の中にイメージを描く。挿絵に助けられながら、子どもは心の中に物語の世界を描いていくこ

とができ、一つの新しい体験を自分のものにする。つまり、子どもの想像力を補い、豊かにするのに大きな役割を持っている。

・絵本とは、子どもにとって楽しいものなので、読みっぱなしにすることが原則である。子どもの自由な想像の翼は、空想の世界にはばたいて想像力をますますかきたてている。

・絵本とは、おもちゃでも雑誌でもない、子どもが最初に出会う本である。一冊をとおして、文章(物語)にも、絵にも、しっかりした骨組みがあり、イメージをきざみつけるリズムがあり、一冊で堂々とした世界を作り上げているような本である。

・絵本とは、親と子を結ぶ心の広場である。子どもは、お父さんお母さんが自分に本を読んでくれること自体が嬉しく、おまけにその絵本がおもしろければとても幸せなのである。親と子が共通の精神を持っていること—絵本を読んであげること—は、親と子の人間関係に計り知れぬ重みと意味がある。つまり、絵本は、人間と人間の心の通い合いの中に存在して、初めて生き生きと語り出すのである。

以上を通し、まず、ここで言う絵本とは、『絵を主体とした児童用読物』とする。

絵本とは、親と子が同じ時間を共有でき、気持ちや心を通い合わせることでできるもの。親が子どものことを考え絵本を与えることや読み聞かせることが子どもの喜びであり、幸せにつながるものなのだ。

絵本とは、子どもにとって楽しいものであり、また、いろいろな体験をさせてくれるものであると考える。子どもは、絵本の中で擬似体験をすることで驚いたり、喜んだり、悲しんだり、笑ったりといろいろな感情を持ち、そのことにより、心豊かな人間へと成長していくのだ。

このように親子関係への影響力も大きいとされる絵本が、実際どのように家庭の中で利用されているのだろうか。

## Ⅱ. 家庭における絵本利用の現状と父親の育児参加の現状を探る（質問紙調査1）

の調査用紙を幼稚園を通して各家庭に配布した。1～2週間の間に回答してもらい回収した。

### （1）方法

被験者（私立幼稚園の3～5歳児の父親、母親）は、質問紙（資料1）について、各家庭で、回答してもらう。

質問紙の内容は、資料1の通りである。

- 1) 調査時期 2002年 6月～7月
- 2) 調査対象 私立幼稚園の3～5歳児の父親48名、母親152名
- 3) 手続き 「絵本についてのアンケート」

### （2）結果

それぞれの質問紙を集計し、実数や百分率を表に表した。

結果は、以下の通りである。

#### ①普段、子どもに絵本を読んでいますか？

表1 家庭における絵本の読み聞かせの有無

父 親				母 親				合 計			
はい		いいえ		はい		いいえ		はい		いいえ	
N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
42	21	6	3	138	69	14	7	180	90	20	10

\* 「はい」と答えた方、誰が読んであげているのか記入してください。

表2 家庭における絵本の読み手

父 親			母 親		
回 答	N	%	回 答	N	%
1. 父か母が読む	14	8	1. 父か母が読む	35	19
2. 母が読む	22	12	2. 母が読む	96	53
3. 父が読む	4	2	3. 父が読む	2	1
4. その他	1	1	4. その他	4	2
5. 無記名	1	1	5. 無記名	1	1

\* 「いいえ」と答えた方、なぜですか？

表3 家庭において絵本の読み聞かせをしない理由

父 親			母 親		
回 答	N	%	回 答	N	%
1. 興味が無い	0	0	1. 興味が無い	2	10
2. 時間がない	2	10	2. 時間がない	4	20
3. 自分で読む	0	0	3. 自分で読む	2	10
4. その他	3	15	4. その他	2	10
5. 無記名	1	5	5. 無記名	4	20

#### ④休みの日、お父さんは子どもと何をして遊びますか？

表4 休日の父親の子どもとの遊びの内容

1、戸外遊び 公園で体を動かして遊ぶ  サッカー ボール遊び 自転車 散歩 戦いごっこ 鬼ごっこ  等	2、室内遊び  折り紙 絵本 おもちゃ ごっこ遊び ビデオ パソコン ゲーム  等
--	---

②普段、家にある絵本でお父さん、お母さんがよく読んであげている絵本を書いてください。

表5 家庭でよく読む絵本

父 親		
三びきのごぶた	ほく、しんかんせんにのったんだ	ねずみのでんしゃ
ふとっちょねこ	ぐりとぐら	恐竜図鑑
はなさかじいさん	動物物語	やさいでべったん
やさしいライオン	けんかのきもち	ピノキオ
となりのトトロ	だれも知らない小さな国	三びきのやぎのがらがらどん
きんいろらっこのくに	ノantan	虫図鑑
あらいぐまとねずみたち	しょうぼうじどうしゃじぶた	びっけやまのおならくらべ
ふしぎなともだち	いやいやえん	ももたろう
トーマスシリーズ	さるかにばなし	
母 親		
かさじぞう	おおきなおおきなさかな	ピーターパン
ぐりとぐら	あなたがだいすき	しんかんせん図鑑
そらまめくんとめだかのこ	イソップ物語	わににわのおふろ
三びきのごぶた	はじめてのおつかい	しゅっぱつしんこう！
ひまわり	こすずめのぼうけん	ばばあちゃんシリーズ
かわいそうなぞう	人魚姫	ライオンキング
はらぺこあおむし	エルマーのぼうけん	あまがさ
しまじろう	11びきのねこ	14ひきのねずみシリーズ
ふたりはいっしょ	いもうとのにゅういん	きんぎょがにげた
るさんのおかいもの	きつねとつる	「きょうはなんのひ？」
はなびのはなし	スチーブソン	びっけやまのおならくらべ
パパ、お月さまとって	といれとつきゅう	はじめてのキャンプ
アンパンマンシリーズ	ざぼんじいさんのかきのき	バムとケロシシリーズ
いやいやえん	マッチ売りの少女	いたずらかいじゅうトアトア
おうちにかえろうちいくまくん	とべないほたる	ちよろりんのすてきなセーター
おしゃれねこ	おふろだいすき	どうぞのいす
からすのパンやさん	はみがきできるよ	ふたりはともだち
シンデレラ	となりのトトロ	えんそくバス
にじいろのさかな	そらまめくんのベット	小さなうち
くまのプーさんおはなしだいすき	しろくまちゃんのほっとけーき	ももたろう
だいじょうぶだいじょうぶ	わすれられないおくりもの	どろんこハリー
おおきなかぶ	わたしのワンピース	ヘレンケラー
そらいろのたね	せんたくかあちゃん	しょうぼうじどうしゃじぶた
こんとあき	すてきな三にんぐみ	ほくを探して
キャベツくん	パジャマでおでかけ	かさぶたくん
三びきのやぎのがらがらどん	ぐるんぱのようちえん	

③お父さん・お母さんは、絵本が好きですか？

表6 父親・母親の絵本愛好者の割合

父 親						母 親					
はい		いいえ		無回答		はい		いいえ		無回答	
N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
37	77	6	13	5	10	141	93	5	3	6	4

⑤絵本は、子どもに必要ですか？

表7 子どもにとって絵本は必要か

父 親						母 親					
はい		いいえ		無回答		はい		いいえ		無回答	
N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
43	90	0	0	5	10	146	96	0	0	6	4

### (3) 考察

#### ①家庭における絵本利用と育児参加の現状

「子どもに絵本を読んであげていますか」(表1)という質問に対し、父親、母親合わせて200名中、180名(90%)が「はい」と回答した。かなりの率で、家庭で絵本の読み聞かせが行われているように思われる。世界から発信されている読み聞かせの大切さについての研究報告や事例報告、メディアや雑誌からの情報、国内の絵本や読書に関する呼びかけや活動など、親、特に母親の絵本の読み聞かせへの意識は、高まっているように思われる。「いいえ」は、200名中、20人(10%)で少なかった。理由の「時間がない」の回答は、共働きや育児に追われている家庭が考えられる。

「誰が読んであげていますか。」(表2)という質問に対しては、「母親」という回答が200名中、118名(59%)続いて、「父親か母親が読む」49名(24.5%)である。実際の所、父親か母親といっても母親が読むことの方が多く、父親は、休みの日の短時間になってしまうことが多いようだ。父親にだけの質問、「休みの日、子どもと何をしていますか」(表4)の自由回答では、体を使っての戶外遊びが多い。これは、父親・母親それぞれに伝統的な分業意識があり、父親は行動的・活動的な遊びと関わり優先意識を含み、比較的静態的な様相をとる事の多い絵本の読み聞かせは母親中心という考えがあるのではないかと考えられる。少ない数ではあるが、絵本は、「父親が読む」という回答は、6名(3%)であった。

#### ②絵本の多様化と父親の役割

「普段、家にある絵本でお父さん、お母さんがよく読んであげる絵本を書いてください」(表5)に対して、母親の方は、特にたくさんの絵本名があげられていて、この結果からみると、読んであげている絵本は、特定されていないように思われる。父親、母親、両方にシリーズものが入っていた。

「絵本は好きですか」(表6)という質問に対し、父親48名中、37名(77.1%)が「はい」と答え、

母親は、152名中、141名(92.8%)が「はい」と答えた。父親、母親共に好きな率が高く、特に母親は、好きなようだ。各家庭で、多く読まれていることとの関連がありそうである。

また、「絵本は、子どもに必要ですか」(表7)という質問には、父親48名中、43名(89.6%)母親152名中、146名(96.1%)共に無回答以外の人が皆、「必要である」という回答だった。父親が絵本の読み聞かせを行う理由としては、絵本が好きという理由を上回り、必要性を感じているからではないかとも考えられる。また、父親の場合、子どもとの貴重な時間・特別な時間の中で絵本の読み聞かせを行うことがとても重要な父親としての役割であり、意味のある時間であると考えているのではないか。必要性については、父親・母親共に絵本が子どもに与える影響や、絵本に期待することとの関連がありそうだ。

### Ⅲ. 親が子どもに与える絵本に期待することを探る(質問紙調査2)

第2節では、第1節の結果から、家庭の多くで、絵本が特に母親によって読まれていること、特定の絵本でなく、多くの絵本が読まれていること、父親、母親共にそのほとんどが絵本を好きであり、子どもに絵本が必要であると考えている。徳田<sup>7)</sup>(2001)は、「大人は、それぞれの領域で子ども達がよい本と出会うことができる環境を整えていく必要がある。」とし、親自身がよい本を知っていく事の大切さ、選んでいく大切さについて述べている。特に絵本を買い与える事の多い親の選択は、重要であるということになる。

そこで、子どもに与える絵本に期待することは何か、そしてその考えが父親、母親で違いがあるのかを明らかにする。

#### (1) 方法

被験者(私立幼稚園の3～5歳児の父親、母親)は、質問紙(資料2)について、各家庭で、回答する。

1) 調査時期 2002年 6月～7月

- 2) 調査対象 私立幼稚園の3～5歳児の父親  
153名、母親164名
- 3) 手続き 「絵本についてのアンケート」  
(自由記述)の調査用紙(資料  
2)を幼稚園を通して各家庭に  
配布した。1～2週間の間に回  
答してもらい回収した。

については、平均値を調べ、5件法(1、とても  
そう思う 2、そう思う 3、どちらでもない 4、  
そう思わない 5、とてもそう思わない)の中で、  
父親、母親共に数値の低い順から3項目ずつ出し  
て検討した。そして、父親と母親の「絵本に期待  
すること」に違いがあるか検討するため、t検定  
を使い調べてみることにする。

質問紙の内容は、資料2の通りである。

また、t検定より、方向性を確認し、さらに細  
かく、サインテストで程度の違いを検証する。

(2) 結果

結果(図1、表8、表9)は、以下の通りである。

父親と母親の「絵本に期待すること」は何かに

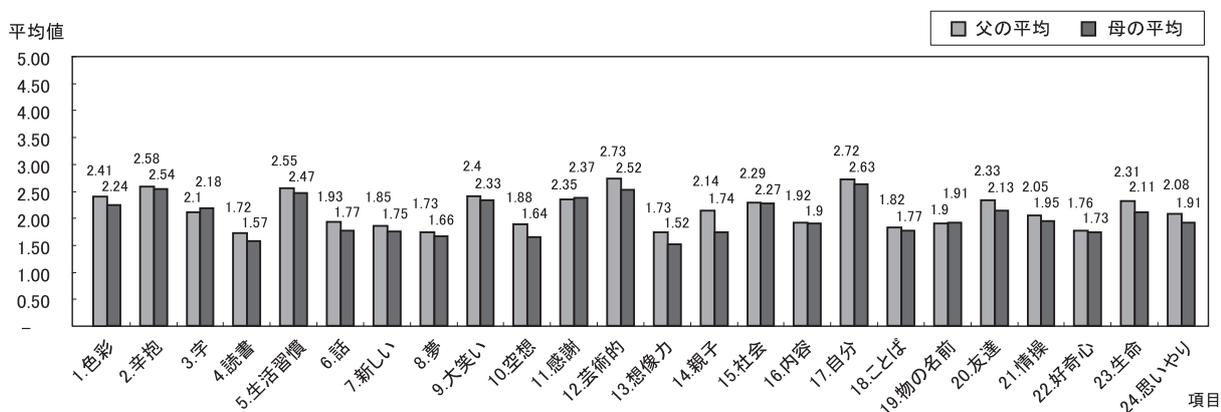


図1 父と母の「絵本に期待すること」の比較

表8 父親と母親のt検定の結果

項目	父 (N = 153)		母 (N = 164)		T 値
	M	SD	M	SD	
1. 色彩	2.41	0.97	2.24	0.74	1.72
2. 辛抱	2.58	1.00	2.54	0.85	0.37
3. 字	2.10	1.00	2.18	0.89	-0.74
4. 読書	1.72	0.76	1.57	0.68	1.80
5. 生活習慣	2.55	0.93	2.47	0.76	0.83
6. 話	1.93	0.86	1.77	0.70	1.83
7. 新しい	1.85	0.78	1.75	0.72	1.18
8. 夢	1.73	0.74	1.66	0.68	0.85
9. 大笑い	2.40	0.93	2.33	0.87	0.69
10. 空想	1.88	0.80	1.64	0.64	2.92 **
11. 感謝	2.35	0.88	2.37	0.72	-0.14
12. 芸術的	2.73	0.99	2.52	0.83	2.00 *
13. 想像力	1.73	0.72	1.52	0.61	2.77 **
14. 親子	2.14	0.81	1.74	0.69	4.73 **
15. 社会	2.29	0.85	2.27	0.73	0.29
16. 内容	1.92	0.70	1.90	0.71	0.16
17. 自分	2.72	0.93	2.63	0.76	0.95
18. ことば	1.82	0.64	1.77	0.65	0.68
19. 物の名前	1.90	0.77	1.91	0.75	-0.15
20. 友達	2.33	0.86	2.13	0.65	2.32 *
21. 情操	2.05	0.75	1.95	0.55	1.28
22. 好奇心	1.76	0.60	1.73	0.58	0.50
23. 生命	2.31	0.91	2.11	0.70	2.23 *
24. 思いやり	2.08	0.81	1.91	0.71	2.06 *

\* p < 0.05

\*\* p < 0.01

表9 父親と母親の「絵本に期待すること」のサインテスト結果

	父親		母親		父親		母親
1. 色彩	2.41	>	2.24	13. 想像力	1.73	>	1.52
2. 辛抱	2.58	>	2.54	14. 親子	2.14	>	1.74
3. 字	2.10	<	2.18	15. 社会	2.29	>	2.27
4. 読書	1.72	>	1.57	16. 内容	1.92	>	1.90
5. 生活習慣	2.55	>	2.47	17. 自分	2.72	>	2.63
6. 話	1.93	>	1.77	18. ことば	1.82	>	1.77
7. 新しい	1.85	>	1.75	19. 物の名前	1.90	<	1.91
8. 夢	1.73	>	1.66	20. 友達	2.33	>	2.13
9. 大笑い	2.40	>	2.33	21. 情操	2.05	>	1.95
10. 空想	1.88	>	1.64	22. 好奇心	1.76	>	1.73
11. 感謝	2.35	<	2.37	23. 生命	2.31	>	2.11
12. 芸術的	2.73	>	2.52	24. 思いやり	2.08	>	1.91

CR = 3.67 \*\*  
\*\* p < 0.01

### (3) 考察

父親と母親の t 検定の結果 (図1) (表8) とサインテスト (表9) より考察する。

ア. 父親と母親の「絵本に期待すること」に違いがあるかについての考察

#### ①平均値による考察

平均値をみてみると、5件法 (1、とてもそう思う 2、そう思う 3、どちらでもない 4、そう思わない 5、とてもそう思わない) で全体的に平均値の数値が父親より、母親の方が小さい数値に傾いている傾向がみられ母親の期待の大きさがわかる。真ん中の (3、どちらでもない) を境にして父親、母親共に (1、とてもそう思う 2、そう思う) よりなので、同じ方向性の中での程度の違いが考えられる。

#### ②意差による考察

t 検定の結果、24 項目中、7 項目に有意差が認められた。7 項目は、以下の通りである。

「空想の世界を楽しむ」

( t = 2.92 p < 0.01)

「芸術的な絵に触れる」

( t = 2.00 p < 0.05)

「想像力が豊かになる」

( t = 2.77 p < 0.01)

「親子で共有する世界をもつ」

( t = 4.73 p < 0.01)

「友達を大切にする」

( t = 2.32 p < 0.05)

「生命を大切にできるようになる」

( t = 2.23 p < 0.05)

「思いやりの気持ちが育つ」

( t = 2.06 p < 0.05)

いずれも、母親が父親よりも絵本への期待が大きいことがわかった。これは、育児時間の長い母親の普段子どもに接する時間や絵本に触れる機会の差などが関係しているのではないかとと思われる。また、「親子で共有する世界をもつ」という項目の有意差が最も大きいことから、母親は、絵本を子どもと共に楽しむものと感じ、父親は、字を覚えることや物の名前を覚えることなどの教育効果を期待する傾向が比較的強く、絵本自体に対する考え方の違いが見られるのではないかと考える。

#### ③サインテストによる考察

検定の考察より、同じ方向性の中での程度の違いが考えられるため、サインテストにより、程度の違いを実証する。

サインテストの結果、CR = 3.67 ( p < 0.01) で有意であり、父親の数値が母親の数値より大きく、程度の違いが実証された。多くの項目に対し、思いの強さが父親よりも母親の方に強くでているということになるであろう。

## イ. 父親と母親の「絵本に期待すること」は何か についての考察

### ① 平均値からみた考察

- 父親
1. 「読書が好きになる」 1.72
  2. 「夢をもつようになる」 1.73
  3. 「想像力が豊かになる」 1.73

- 母親
1. 「想像力が豊かになる」 1.52
  2. 「読書が好きになる」 1.57
  3. 「空想の世界を楽しむ」 1.64

順位は違うものの3つのうち2つは、同じ項目がはいっている。お互いに違う項目、父親の2. 「夢をもつようになる」 1.73 は、母親の方では、平均値が 1.66 であり、母親の3. 「空想の世界を楽しむ」 1.64 は、父親の方での平均値が 1.88 と互いに母親の期待が大きいことになる。

松岡享子<sup>8)</sup> (1987) は、絵本について以下のように述べている。

・『絵本の時代は、心を育てる時代である』ため、絵本から受ける素朴な感動を、大事にする。驚いたり、不思議がったり、感心したり、笑い転げたり、自分の理解し得ない深い世界があることを感じとったりする、そういう働きからおもしろいという感動が生まれ、感動の経験を繰り返すことにより心が育つのである。

・『幼児の時代は、絵でものを考える時代である。』だから、絵本が必要になってくるのだ。さし絵は、子どもたちにとって、実に大きい意味をもっている。あるものを認識させる時、絵を見せながら一緒に文字を見せる経験を繰り返していく。このように、実態とそれを表す記号（文字）を結びつけることを学ぶとき、その一つ前の段階として必ず絵でものを考えるのである。

・『絵本は、子どもたちに知識を与え、子どもたちの想像力の働きを支えることによって、子どもたちのうちに、ものごとを絵にする力を養うものである。』経験や知識も乏しく、ことばもたくさん知らず、自分で映像を描き出す能力も未発達の子どもの場合は、具体的にそのものを示してくれる絵が必要である。想像力も絵本の絵によって強

められ、育つのである。

出雲路猛・竹ノ谷真知子・三井和子<sup>9)</sup> (1974) が5歳児の母を対象に行った絵本に関する意識調査の中で、子どもに絵本を与える理由として、「読書の楽しみを知らせ、読書に興味をもたせたい」「想像力豊かな子にしたい」「いろいろな知識を身につけさせたい」と考えているという結果が出ている。この結果と上記の結果もかなり似ている。

すべての結果から、絵本に対しての母親の強い気持ちが表れていた。この違いについては、父親と母親の育児状況の違いはもちろんのこと、絵本そのものに対する考え方に違いがあるのではないかと考えた。母親は、子どもに絵本の読み聞かせを行う中で、その時間を子どもと共有できる楽しい時間、共に想像し、共感し合える楽しい時間と考え、父親の方は、短い貴重な時間の中での読み聞かせであって、自分の役割意識が高く、楽しむ気持ちよりも使命感や必要性を強く感じているのではないかと考えられる。

## VI. 今後の課題

父親の役割からみた育児における絵本の読み聞かせの大切さ

今回の結果から、家庭内での絵本利用の状況と父親の育児参加の現状を探り、父親が子どもに与える絵本に期待するものは何かを母親との比較を通し行った中で、それぞれの役割概念からの違いや絵本そのものへの考え方の違いを明らかにした。

水島かな江<sup>10)</sup> は、小さな子ども（乳幼児）にとって、接触時間の最も多い親が本に対してどのような態度であるかは、その後の読書習慣の形成に極めて大きな影響を与えることが予測できるとし、読書好きの大人がいる家庭には、生活の中に暖かな、手に優しい本が環境として存在し、(省略) 子どもに読み聞かせるときに決して読んでやるのではなく、共に読むのであり、それを契機として、子どもの目にふれる読書（絵本や童話を子

どもと共に読むときは、日常の家事の合間の読み行動ではなく、読むこと自体が当面の目的になっていることがポイント) が可能となるのであるとした。

また、「絵本の力」<sup>11)</sup>の中で松居は、耳から聴く言葉の体験というのは、言葉の体験ではいちばんたいせつなこととし、柳田は、家庭の中で親子に読んで聴かせるというのがいちばん大事なことと述べている。

絵本は、読み聞かせることがとても大切であり、耳からことばを受け入れ、それにより、挿絵に助けられて、子ども達が想像を膨らませる。この体験の繰り返し、未発達な子ども達には、最も必要なのだと考える。

JPIC 財団法人出版文化産業振興財団 (2006) が刊行している季刊誌「この本読んで！」の読者の夫 100 人に対し、家事・育児の関わりや読み聞かせについて実施したアンケートの中の結果で、父親が関わっている家事・育児の第 3 位に読み聞かせがあがっていて、全体の 42%であったという。この結果から読み聞かせをしているお父さんが多いと言え、その一方で、読み聞かせが好きだと答えた父親は 28%、読み聞かせが得意と答えた父親は 21%、「どちらともいえない」が半分以上をしめているが低い数値である。また、自由記述の中では、「自分にはできない」「何がおもしろいかわからない」「面倒くさい」「自分が眠くなってきてつらい」といったネガティブな回答が並んでいるとのことで、父親にとって読み聞かせは発展途上であるといえるのではないかと「父親の絵本読みかせ」の中で述べられている<sup>12)</sup>。

そんな中、父親による読み聞かせの会などの活動も増え、父親が読むと効果がある絵本などもあげられているブログやサイトが増えてきた。また、川井薫栄、高橋美和子、古橋エツ子<sup>13)</sup> (2008) の「絵本の読み聞かせと親子のコミュニケーション」の研究では、父親の読み聞かせ効果の中に、「父親による読み聞かせは、家庭や地域において広がりつつある」とし、「絵本の選び方に特徴があり、お父さんが選ぶ絵本として、ピロウなテ-

マ、ワイルドさといった母親からは敬遠されている絵本を母親と違う切り口で選んでいる。」と書かれている。また、「読み聞かせにおける親子のコミュニケーションは、子どもの気持ちを理解しやすくなるなど①親子の絆を深め②本への親近感を増し③知的な好奇心をもたらす」とし、「子どもだけでなく父親にも大きな影響を与えている」とした。そして、「父親による読み聞かせの先行研究論文がほとんどないことを痛切に感じた」とし、父親の読み聞かせの大切さを訴えながらも、浸透していない現実を思わせている。このことは、父親の育児休暇なども叫ばれている現状の中、ここ何年間も育児期の男性の就業時間に変化がなく、長時間労働であることも原因の一つではないかと思われるため、父親が育児参加するためには、まず「働き方」を見直す必要があるようだ。

今回の研究では、家庭内での絵本利用の状況と父親の育児参加の現状を探り、父親が子どもに与える絵本に期待するものは何かを明らかにし、父親の意識と役割について考えた。今後の研究では、育児参加が叫ばれ父親学級や父親クラブでの読み聞かせ活動も増えているため、その活動状況や絵本の読み聞かせによる子どもへの影響と共に父親への影響についても探っていきたい。

## 引用文献

- 1) 川上あずさ・牛尾禮子「父親の育児に対する役割意識に関する要因とその支援方略」小児保健研究, 2008年, pp496～503
- 2) 鈴木光司『父性の誕生』: 角川 one テーマ 21 (A - 1), 2000年, pp40～44
- 3) 松居 直『絵本とは何か』日本エディタースクール出版部, 1973年, pp3～77
- 4) 福沢周亮・池田進一『幼児のことばの指導』教育出版, 1996年, pp100～101
- 5) 正高信男『父親力』中公新書, 2002年, pp73～83
- 6) 松居 直『絵本とは何か』日本エディタース

クール出版部, 1973年, pp9～12

- 7) 徳田克巳「家庭における幼児と童話・昔話とのかかわり」—幼児の「童話・昔話離れ現象」を中心に— 読書科学, 2001年, p68
- 8) 松岡享子『えほんのせかい こどものせかい』日本エディタースクール出版部, 1987年, pp23～39
- 9) 出雲路猛・竹ノ谷真知子・三井和子「絵本に関する母親の意識調査」読書科学, Vol.21, 1974年, pp1～12
- 10) 水島かな江「子どもの読書と親のあり方」The Science of Reading, Vol.32, No.3, 1988年, pp82～83
- 11) 河合隼雄・松居 直・柳田邦男『絵本の力』岩波書店, 2001年, pp162～167
- 12) [http://ehon.cc/know/2006/08/31/titioya\\_ehon\\_yomikikase\\_research.html](http://ehon.cc/know/2006/08/31/titioya_ehon_yomikikase_research.html)
- 13) 川井薫栄・高橋美和子・古橋エツ子「絵本の読み聞かせと親子のコミュニケーション」花園大学社会福祉部紀要第16号, 2008年, pp83～96

#### 参考文献

- 原崎聖子・篠原しのぶ「母親の乳幼児に関する調査」—ブックスタート事業18ヶ月児を中心に— 福岡女学院大学紀要・人間関係学部編, 2006年
- 林 伸子「母親の絵本観に関する実証的研究」聖徳大学修士論文, 2002年
- 小林斗志子「小学校児童と母親の絵本観に関する実証的研究」聖徳大学修士論文, 2002年
- 財団法人 日本女性学習財団「家庭教育に関する国際比較調査報告書」1994年
- 独立行政法人 国立女性教育会館「家庭教育に関する国際比較調査報告書」2004年
- 松居 直「絵本とは何か」日本エディタースクール出版部, 1973年
- JPIC 財団法人出版文化産業振興財団「この本読んで！」季刊誌, 2006年



資料2

絵本についてのアンケート 記入者のお子様（年少・年中・年長）（男・女）

下記の質問であてはまるものに、○をつけてください。

あなたは、幼児に絵本を読んであげることで、どんなことを期待しますか？

下記の期待を表す項目について、5つの答えのどれか1つに○をつけてください。

(注) このアンケートは、6月 日までに担任の先生にお渡しください。間に合わない方は、随時受け付けます。

- 1、色彩感覚を養う。
- 2、辛抱することも大切であることを知る。
- 3、字を覚える。
- 4、読書が好きになる。
- 5、生活習慣を身につける。
- 6、人の話が聞ける子になる。
- 7、新しい発見の喜びを知る。
- 8、夢をもつようになる。
- 9、大笑いするような楽しさを体験する。
- 10、空想の世界を楽しむ。
- 11、感謝の気持ちを持つようになる。
- 12、芸術的な絵に触れる。
- 13、想像力が豊かになる。
- 14、親子で共有する世界を持つ。
- 15、社会のルールを知る。
- 16、内容などの理解力を身につける。
- 17、自分の行動に責任を持つようになる。
- 18、ことばの力を養う。
- 19、物の名前を覚える。
- 20、友達を大切にする。
- 21、情操を養う。
- 22、好奇心が育つ。
- 23、生命を大切にようになる。
- 24、思いやりの気持ちが育つ。

あてはまるものに○をつけてください。その他には、書ける範囲で、ご記入お願い致します。

\*記入者の年齢（20代 30代 40代 50代 60代）

\*記入者の性別（男性 女性）

\*子供（ ）人 子供の年齢（ ）

\*記入者の最終学歴（ ）

お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

（東萌保育専門学校専任教員 前徳明子）